

大学生の生活時間とギャンブル行動に関する研究
-アスリート学生と一般学生の比較の視点から-
A study on life time and gambling behavior of college student
1K07A174-0 林 幸一郎

指導教員 主査 作野 誠一 先生 副査 木村 和彦 先生

【緒言】

筆者の大学生生活を振り返ってみると必ずしも効率的な時間の使い方ができているとは言えないと思われる。しかし、高校時代には充実した生活を送り、効率的な時間の使い方を実践し、それなりの競技成績も残すことができた。

そこで、全国大会で上位に入賞するようなトップアスリート学生は一般学生よりもタイムマネジメントがうまいのではないかと考え、同時にアスリート学生の生活スタイルを調査することに興味を持った。また、生活時間に関する先行研究のなかで、アスリート学生のギャンブル行動に関する研究は存在したものの、アスリートのみ焦点を当てており、一般学生との違いが比較された研究は見当たらなかった。そのため、アスリート学生とギャンブルの関連性についても調査することとした。

【研究目的】

本研究では大学生アスリートと一般大学生の生活時間の実態ならびに大学生アスリートとギャンブル行動の関連について明らかにすることを目的とした。

【研究方法】

本研究では早稲田大学に所属する学生に対してアンケート調査を行った。調査対象とした学生を1. 体育会に所属かつ全国大会以上の大会で入賞以上の成績を納めた「トップアスリート学生」、2. それ以外の体育会に所属する「アスリート学生」、3. サークルに所属する、あるいは体育会にもサークルにも所属していない「一般学生」の3つに分類した。アンケート調査の内容は、調査対象者の属性や競技歴等に関する質問、練習頻度・休曜日に関する質問、アルバイトに関する質問、生活時間の使い方の満足度に関する質問、ギャンブルに関する質問、さらに具体的な土～火曜日（4日間）の生活行動をたずねる質問を行い、回答を得た。そして得られた結果を統計的に処理し、生活時間満足度・ギャンブル行動の2項目をについて性別、所属団体別、競技成績別、学生分類別に比較した。さらに4日間の一人あたり合計時間を算出し、上記各項目ごとに比較した。データ分析にあたっては、Microsoft Excel 及び SPSS を使用した。

【結果と考察】

調査の結果から、女性の方が生活時間満足度は高く、一般学生よりも体育各部に所属している学生の方が満足度は高かった。学生分類別でみると「アスリート学生」が最も満足度が高く、トップアスリート学生のような相対的に競技成績が高い者の満足度が高いわけではなかった。ギャンブル行動別にみると、女性よりも男性のギャンブル参加率が高かった。ギャンブルと所属団体別・学生分類別・生活時間満足度別それぞれ関連性を調べたが有意差は見られなかった。しかし、4日間の一人あたり合計時間ではトップアスリート学生のギャンブルに割く時間が最も長いという傾向が見られた。

【結論】

生活時間満足度に関する質問項目では、アスリート学生は起床時間や就寝時間といった生活行動のサイクルがほぼ習慣化されており、不明時間やその他の項目に要した時間が少なく、学校関係や娯楽、外出などの項目に割く時間が長かったことから、一般学生よりもアクティブな生活を送っている傾向があることが分かり、結果的に何もしないという時間が少なくなり効率的な時間の使い方ができていることが明らかになった。ギャンブルに関する項目に関しては生活時間満足度をはじめとするすべての項目について有意差がみられず、本研究ではギャンブル行動とアスリートの関係性について統計学的に明らかにすることはできなかった。しかし、4日間の一人あたり合計時間ではトップアスリート学生のギャンブルに割く時間が長い傾向が顕著に見てとれた。トップアスリート学生の週1回以上定期的にギャンブルを行う割合の高さから、アスリートとギャンブルの関係性を明らかにするためには、アスリート学生の常習ギャンブラーの割合、さらにギャンブルを始める機会などについての研究も重要なものとなるだろう。アスリート学生とギャンブル行動の関係を明らかにするには、上記を含め種目特性などを考慮したより詳細な分析が必要である。